

第3回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成24年8月29日（水） 15：00－16：45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

古川内閣府特命担当大臣（宇宙政策）、園田内閣府大臣政務官、西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官 他

4. 議事要旨

会議の冒頭古川大臣から以下のようなご挨拶があった。

古川大臣：本日はお集まりいただき、感謝申し上げます。

前回までは、宇宙政策委員会として、宇宙開発利用に関する予算について、関係府省による平成25年度概算要求に当たっての指針となる宇宙開発利用に関する経費の見積りの方針について審議、取りまとめいただいた。

これを踏まえて、8月17日付けで、関係府省に対して「平成25年度宇宙開発利用に関する経費の見積り方針」を通知した。関係府省は、これに基づいて来年度概算要求いただくこととしている。

本日の会合からは、新たな宇宙基本計画策定に盛り込むべき事項に関する審議に入ることとなる。

近年、米国における政策転換や中国の台頭など、世界的にも宇宙開発利用の状況が大きく変化している。また、国内的にも厳しい財政事情の中で、自律性の確保と宇宙利用の拡大、産業基盤の強化等において、メリハリのある検討が必要。

委員の皆様方におかれては、新たな時代にふさわしい新たな宇宙基本計画作りに尽力頂きたい。

議事（1）宇宙開発利用の現状及び課題について及び（2）新たな宇宙基本計画策定に盛り込むべき事項の検討に当たっての基本的な考え方について

事務局から資料1「宇宙開発利用の現状及び課題」及び資料2「新たな宇宙基本計画策定に盛り込むべき事項の検討に当たっての基本的な考え方（案）」について説明があった後、委員からは、以下のような主な意見があった。

資料2については、スケジュールについては柔軟に対応するべきとした上で、了承された。

○①宇宙の利用の拡大と②自律性の確保という2つの考え方は基本的な哲学として適当であるし、基本計画に載せるべき事業の優先順位を合理的に

つける上では、この2つの考え方を基準とする方向でよい。(複数委員からの意見)

- ロケット、衛星の部品やそのメーカーの役割も宇宙開発利用全体のコストや競争力に影響するので検討すべきである。また、どのマーケットを活用するか、前広に検討して行うことが重要。
- 現在の宇宙産業売上3000億円を拡大する努力は必要。現行の宇宙基本計画で想定している年間5000億円(5年間で2.5兆円という試算が現行の計画に記載)との2000億円の差は、①外需、②行政分野における業務を宇宙利用により効率化することなどで捻出された予算の活用、③国内民需などを取り込むことで埋めるべき。特に、外需は、国内から海外へ展開するのではなく、最初からアジアの需要を取りに行くとの発想が重要。(複数委員からの意見)
- 宇宙基本計画の議論を進める上で、従来の関係者以外にも需要を広げる意味からも幅広い方々からヒアリングを行って、委員にもその内容を紹介してほしい。
- 宇宙開発利用を政治的な課題や学術的目的と合わせて検討して行く上で、コストパフォーマンスを十分に評価しないと際限がないものになってしまうので幅広い視点での検討が必要。
- 宇宙開発利用の全ての分野に関わるが、ユーザーの意見をいかに取り入れるかが勝負である。

次回以降のスケジュールについて今後調整するとして、議了。

以上